

用語の解説

食料・農業・農村基本計画

食料・農業・農村基本法（国土や環境の保護など、生産以外で農業や農村の持つ役割を高めること、食料自給率を高めることを目的として、1999年（平成11年）7月16日に制定された法律。）に基づき、食料・農業・農村に関し、政府が中長期的に取り組むべき方針を定めたものであり、情勢変化等を踏まえ、概ね5年ごとに見直すこととされています。現在の食料・農業・農村基本計画は、2020年（令和2年）3月31日に閣議決定されたものです。

GAP（ギャップ）

GAP（Good Agricultural Practice：農業生産工程管理）とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことです。（基本は、整理整頓と生産履歴の記帳です。）

これを我が国の多くの農業者や産地が取り入れることにより、結果として持続可能性の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に資するとともに、消費者や実需者の信頼の確保が期待されます。

日本での主なGAP認証（第三者機関の審査により確認された証明）には、「GLOBAL G.A.P.（グローバルギャップ）」、「ASIA GAP（アジアギャップ）」、「JGAP（ジェイギャップ）」があります。

リカレント教育

生涯にわたり、教育と就労を交互に繰り返すことでスキルを高め続ける教育制度のことです。リカレント教育とは、学校教育を終えた人が再び学ぶことです。

農林水産業・地域の活力創造プラン

農林水産業・地域が将来にわたって国の活力の源となり、持続的に発展するための方策を幅広く検討を進めるために、2013年（平成25年）5月21日、内閣に総理を本部長、内閣官房長官、農林水産大臣を副本部長とし、関係閣僚が参加する農林水産業・地域の活力創造本部が設置されました。

農林水産業・地域の活力創造プランは、同本部において決定される今後の農政のグランドデザイン（全体の構想）となるもので、同プランにおいて示された基本方向を踏まえ、食料・農業・農村基本計画の見直しが行われます。

学校農業クラブ

学校農業クラブは、1948年（昭和23年）に戦後の新制高等学校の学習活動の中で、農業高校生の自主的・自発的組織「SAC」（School Agriculture Club）として誕生しました。

1950年（昭和25年）には全ての都道府県に学校農業クラブが誕生し、全国組織として日本学校農業クラブ連盟が結成されました。また、農業を学ぶ高校生の農業クラブ員としての活動の成果を発表する場として、日本学校農業クラブ連盟全国大会が開催されることとなりました。

栃木県においては、1995年（平成7年）に第46回全国大会が開催されています。

毎日農業記録賞

毎日新聞社主催で、「農」「食」「農に関わる環境」への関心を高めるとともに、

それに携わる人たち、これから携わろうとする人たちを応援する賞です。

創設は、1973年（昭和48年）。農を取り巻く環境が厳しさを増す中、農業者を励まし、明日への希望を抱いてもらおうという趣旨で始められました。

その後、テーマを「食」「環境」へも広げ、「農的暮らし」を楽しむ市民や消費者も対象にして、幅広い方から発言、発信を頂く場となりました。2003年（平成15年）の第37回からは、一般部門に「新規就農大賞」が設けられました。

審査で上位に選ばれた作品は、同社の紙面やホームページ、冊子「キラキラ農業」で紹介されます。（農林水産省も後援しております。）

J R A 未来の畜産女子育成プロジェクト「ニュージーランド酪農研修」

J R A（日本中央競馬会）では、日本中央競馬会法第19条第4項の規定に基づき、農林水産大臣の認可を受け、同会の剩余金を活用して、畜産の振興に資すること目的とする事業に助成を行う法人に対して、資金を交付しています。

ニュージーランド酪農研修は、平成30年度より、「未来の畜産女子育成プロジェクト事業」として、将来の女性農業者リーダーを目指す女子農業高校生に、酪農が盛んで女性就農者の活動が目覚ましいニュージーランドの畜産業を学んでもらうために、公益社団法人国際農業者交流協会が、J R Aの助成を受けて主催しています。

現地では、学校での学習、ファームステイ、視察・見学の他、酪農への就業を目指す女子高校生や実際に畜産業に従事する女性と交流し、コミュニケーション力や英語力を高め、洗練された酪農業の現状や後継者育成の仕組みや取り組みを学びます。

募集人数は毎年度20人で、栃木県からは、平成30年度に2人（宇都宮白楊高校1人、那須拓陽高校1人）、平成31年度は1人（宇都宮白楊高校）が参加しています。

エソシマモチ（江曽島糯）

明治時代に河内郡横川村大字江曽島（現：宇都宮市江曽島町）の農民、篠崎重五郎によって育成された陸稻（りくとう・おかげ）の在来種で、明治30年代から昭和20年代まで作付けされ、一時は栃木県の奨励品種とされていましたが、次第に栽培が途絶え「幻の陸稻」と言われていました。

現在、栃木県は全国第2位の陸稻産地（1位：茨城県）ですが、その基礎となるもので、江曽島町にある村社、瀧尾神社には「老農篠崎君功績碑」があります。

宇都宮白楊高校の橋本智教頭が、2014年（平成26年）に茨城県つくば市のジーンバンクから種もみ50粒を入手し、2016年（平成28年）から同校農業経営科において「エソシマモチ復活プロジェクト」を開始。翌2017年（平成29年）9月には約100kgのエソシマモチを収穫し、約50年ぶりに地元での復活を果たしました。

令和3年2月には、宇都宮白楊高校と江曽島町の農家の皆さんとの努力と菓子業者等の協力により「エソシマおかき」が完成し、店頭販売されています。

新里ねぎ（にっさとねぎ）

宇都宮市新里町で江戸時代から自家採種栽培されてきた伝統野菜で、地元消費が主であるため青果市場への出荷は殆どなく「幻のねぎ」と言われています。

また、農林水産省管轄の農業生物資源ジーンバンクにも登録された価値ある食材です。

平成29年5月26日には、特定農林水産物等の名称の保護に関する法律（地理的表示法）に基づき、栃木県内で初めて地理的表示（G I）に登録されました。

なお、地理的表示（G I）保護制度とは、地域で長年育まれた特別な生産方法によって、高い品質や評価を獲得している農林水産物・食品の名称を品質の基準とともに

国に登録し、知的財産として保護するものです。「新里ねぎ」は、新里ねぎ生産組合（麦島弘文 組合長）が生産者団体として登録されています。

鳥獣管理士

鳥獣管理士は、一般社団法人鳥獣管理技術協会が認定する資格称号です。

鳥獣管理士は、日本の各地で深刻な社会問題となっている、人と野生鳥獣の軋轢問題を、地域で助言指導できる技術者資格として、2010年（平成22年）に設置されました。

キャリア形成支援事業

民間企業から専門分野に精通した講師を招き、専門教科・科目に関連する授業を実施します。

鹿沼菜

鹿沼市で古くから栽培されていた伝統野菜で、緑色が濃く光沢や甘みが特徴のツケナ類です。現在は、栽培しやすいアブラナ科野菜の栽培が多くなり、ほとんど作られなくなってしまったことから、平成22年に鹿沼南高校、宇都宮大学、JAかみつが、鹿沼市、栃木県上都賀農業振興事務所、地元農家がメンバーとなり「伝統野菜の鹿沼菜復活プロジェクト」が結成されました。鹿沼南高校は採種を担当しています。

全国高校生農業アクション大賞

農業高校などの高校生たちがグループで取り組む農や食に関するプロジェクトや課題研究を支援するため、全国農業協同組合中央会と毎日新聞社の共催により2017年（平成29年）から開催されています。対象は、地元の農家や生産者、JA、事業所、NPO、行政機関など地域と連携した3カ年の活動計画となっています。

募集年度に優れた活動計画の15グループが「認定グループ」として選出され、3年目に認定15グループを対象とした「大賞審査」が実施されます。

2017年度第1回認定を受けた鹿沼南高校野菜研究班の「トマトの汚れを一瞬で落とす画期的な洗浄剤の発明」が、2019年（令和元年）に大賞を受賞しています。

ジュニア農芸化学会

日本農芸化学会が、将来のバイオ科学とバイオ技術の発展を期して設けた「高校生による研究発表の場」です。高校生の参加者にとって、大きな学会で大勢の大学教員、企業や公的研究機関の研究者、大学院生を前に自分たちの研究成果を発表する貴重な機会です。

創造力、無限大∞ 高校生ビジネスプラン・グランプリ

（株）日本政策金融公庫が、将来を担う若者の創業マインド向上を目的に、高校生のビジネスプランを競う全国規模の大会です。

第6回大会において、鹿沼南高校（プラン名：～農業女子のための～人と環境と地元に優しいトマトタールに特化した手指洗浄剤の開発）が準グランプリを受賞。第7回大会では、真岡北陵高校（プラン名：竹粉の有効利用と地域への貢献）がセミファイナリストに選出されました。なお、2020年第8回大会は中止されました。

重イオンビーム

重イオンビームは、放射線の一種です。ヘリウムより重い原子から電子をはぎ取る

と、プラスの電荷を帯びた重イオンになります。この重イオンを「加速器」を使って加速したのが重イオンビームです。

農作物の品種改良には、X線やガンマ線といった放射線を利用して突然変異を起こさせる方法がある様に、「重イオンビーム」という放射線を使った手法で、より効率よく新品種を作り出すことができます。

足尾に緑を育てるための植樹活動

足尾銅山は、江戸時代から銅の産地として日本の産業を支えた遺産である一方、田中正造の直訴事件などで知られる鉛毒事件や煙害による森林破壊といった悲しい歴史も持っています。渡良瀬川の源流に位置する旧足尾町（現日光市）松木地区は、この煙害により荒廃し、国や県などによる復旧事業が約100年前から続けられてきました。

足尾に緑を育てるための植樹活動は、1996年（平成8年）「荒廃した足尾の山に100万本の木を植えよう」との目標を掲げて結成され、2002年（平成14年）にNPO（非営利組織）法人となったNPO法人足尾に緑を育てる会が主導して行われています。

2018年（平成30年）までに、延べ約18万8千人が植樹活動に参加し、約24万本の苗木が植え付けられています。

ポリネーター

植物の花粉をオシベからメシベに運んで、受粉させる動物（昆虫や鳥）の事です。
送粉者・授粉者・花粉媒介者ともいいます。

蜜源植物（みつけんしょくぶつ）

ミツバチが蜂蜜を作るために花から蜜を集める植物です。世界には、約4,000種の蜜・花粉源植物があると言われており、日本では、600種類以上の植物にミツバチの訪花（花粉を集めるために花を訪れる）が確認されています。

蜜ろう

ミツバチの巣そのもののことです。

ミツバチは、腹部から「蜜ろう」を分泌しそれを唾液と混ぜ合わせて巣を作ります。

スマート農業

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のことです。

日本の農業の現場では、課題の一つとして、担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻となっています。そこで、スマート農業を活用することにより、農作業における省力・軽労化を更に進められる事が出来るとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待されます。

詳細は、農林水産省ホームページに情報がございますので、ご覧下さい。

MPS（花き産業総合認証）

花きの先進国オランダで環境負荷低減プログラムとしてスタートしたもので、花きの生産、流通現場における環境、鮮度・品質管理、社会的責任に対応している事を示す認証システムです。MPSには3つのタイプ（生産者向け・市場向け・流通向け）の認証があり、栃木農業高校は、生産者向けMPSの「環境」認証を取得しています。

道普請（みちぶしん）

地域住民の協働活動により、道路などの公共物の修繕や保全を行うことです。

SDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）

SDGsは、2001年（平成13年）に策定されたミレニアム開発目標（MDGs：エムディージーズ）の後継として、2015年（平成27年）9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳の参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ（予定表）」に掲げられた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。詳細は、農林水産省ホームページをご覧下さい。



17の目標と食品産業とのつながり

SDGsの各目標を食品産業の視点を加えて解説し、先行企業の具体的な事例も目標別に紹介しています。

関心のある目標をクリックしてご覧ください



旋盤

チャックという回転する台に加工物をとりつけ、工具を当てて工作物を削って作りだす機械を旋盤といいます。

フライス盤

ミリング・マシンとも呼ばれ、回転軸に取り付けたフライスという切削工具を回転させ、フライスを動かすことによって、平面・溝・歯車などの切削加工を行う工作機械です。

ガス溶接

可燃性ガスと酸素が結び付き、燃焼する際に発生する熱を利用して金属の接合を行う溶接の方法です。

アーク溶接

空気中の放電現象（アーク放電）を利用し、同じ金属同士をつなぎ合わせる溶接の方法です。

ビオトープ

本来その地域に住むさまざまな野生生物が生息できる空間のことです。公園の造成や河川の整備等に取り入れられています。

大豆100粒運動

大豆100粒の量は、小学校低学年の子供の両手の手のひらで受け止められる量です。

「子どもたちが大豆を育て、さまざまな経験をする中で生きる力を身につけて行ってほしい。」との願いから、料理家で随筆家の辰巳芳子さんが提唱したのが「大豆100粒運動」です。運動の運営を担うのは、2005年（平成17年）に結成された「NPO法人大豆100粒運動を支える会」で、低い食料自給率への危機感や食料の安全への危機感、大豆の栄養、学校教育の場に有効といった観点から大豆の再興を推進しています。

デュアルシステム（産業現場等における実習）

デュアルとは、「二重」又は「二者」を意味する言葉です。

デュアルシステムは、学校での基礎学習と現場での実地訓練（OJT）を組み合わせることで実践的な職業能力を身に付けさせるやり方です。欧米の職業教育では広く取り入れられており、日本では2004年（平成16年）より、文部科学省モデル事業「日本版デュアルシステム」として導入されました。

栃木県の農業関係高校では、宇都宮白楊高校と矢板高校で実施されています。

全国農業高校・農業大学校ホームページコンテスト

慶應義塾大学SFC研究所が運営するアグリプラットフォームコンソーシアム（ICTによる農業の高付加価値化やグローバル展開、篤農家の匠の技の解析・継承に資するAI農業の展開を目的として、慶應義塾大学アグリインフォサイエンスラボが中核となり、2010年（平成22年）4月に設立された組織です。）が、農業IT分野の产学連携の一環として、各農業教育機関への注目度の更なる向上や農業分野全体の活性化を促す一助となることを目的に、2016年（平成28年）度から開催しているコンテストです。全国の農業高校（農業系学科を設置している高校を含む）、農業大学校及び民間農業教育機関が「夢のある農業を描き、自分たちらしい活動」の内容を広く世の中に届けるツールとしてホームページを活用しているか、公開済みホームページより審査し、表彰するものです。

タマネギのセット栽培（オニオンセット）

通常、栃木県におけるタマネギ栽培は、初夏の6月に収穫を行い、その後は翌年まで貯蔵して食用としています。

タマネギのセット栽培は、定植したタマネギを収穫前5月頃（小球のうち）に一度掘り上げ、日陰で貯蔵します。その小球を、9月頃に改めて定植し、真冬に収穫するため、タマネギの端境期であっても新鮮なタマネギを味わうことができます。

和牛甲子園

全国農業協同組合連合会（JA全農）が、担い手育成を目的に全国の農業高校内、畜産学科が設置されている高校を中心に、授業やクラブ活動で高校生が飼育した和牛の肉質と日頃の取組内容を競う和牛枝肉共励会で、2017年度（平成29年度）より行われています。栃木県からの出場校は、以下のとおり毎年優秀な成績を収めています。

第1回大会（2018年1月）総合部門・奨励賞：矢板高校、那須拓陽高校、鹿沼南高校、宇都宮白楊高校、栃木農業高校

〃

肉質部門・優良賞：矢板高校

第2回大会（2019年1月）枝肉評価部門・優秀賞：那須拓陽高校

第3回大会（2020年1月）枝肉評価部門・優良賞：真岡北陵高校

〃

枝肉評価部門・審査委員特別賞：矢板高校

第4回大会（2021年1月）枝肉評価部門・優秀賞：鹿沼南高校

GAP でより良い農業生産を！



Reg.123456789



Reg.123456789

グッド・アグリカルチュラル・プラクティス

GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。（基本は、整理整頓と生産履歴の記帳です。）

【食品安全】



包装資材のそばに灯油など汚染の原因となるものを置かない
堆肥置き場や調整施設では専用の履物を準備する

【環境保全】



廃棄物を農場に放置しない
農薬空容器は分別して処分する

【労働安全】



危険な作業はスイッチを止めてから行う（巻き込まれ防止）
危険箇所の掲示をする

審査

GAP認証

- ・客観的な証明
- ・見えない価値の見える化



取引の際の信頼確保へ

【人権保護】

家族経営協定の締結
技能実習生の適切な労働条件の確保

【農場経営管理】

責任者の配置
教育訓練、内部点検の実施

栃木県内の農業関係学校におけるGAP認証取得状況

(令和3年2月時点)

GLOBAL G. A. P.

- 真岡北陵高校 (品目：米、日本なし)
- 那須拓陽高校 (品目：日本なし)
- 栃木県農業大学校 (品目：日本なし)
- 宇都宮大学 (品目：いちご)

ASIAGAP

- 宇都宮大学 (品目：米)

JGAP

- 宇都宮白楊高校 (品目：トマト、ぶどう、日本なし、ねぎ、米)
- 栃木農業高校 (品目：いちご)
- 宇都宮大学 (品目：乳用牛・生乳、肉用牛)

ガンバレー!
ガンバレー! 高校生!

ガンバレー!
ガンバレー! 大学生!

監修発行／農林水産省関東農政局栃木県振興地方整事官室(担い子育成対策担当)

〒320-0806 栃木県宇都宮市中央 2-1-16

TEL 028-633-3313 FAX 028-634-0042